

行き詰まり症候群

10：真の交わり

アンディ美湖

(訳：鈴木敦子)

これまでとは全く違った教会の姿を想像してみてください。建物が無く、有給の聖職者も無く、聖書もありません。コミュニケーションには規制がなく、プログラムも委員会も教会憲法も、週報さえありません。奇異に聞こえるかもしれませんが、これは初代教会の姿でした。

その時から教会は大きく変わりました。何年もの間に不要な飾り物をとてと付け加えてきました。そして奇妙なことには、このようなことが、今や教会を特徴づけているとあっていいほどです。愛し合う交わりという、教会本来の特徴以上に、です。最初の300年間は、教会は建物も聖職者もプログラムも無いのに、驚くほどうまく機能していました。教会は小さく、リビングルーム中心の、堅く団結した有機体で、人々は互いのことを良く知っていました。お互いの背景や葛藤、勝利や夢、心の痛みや恐れを知っていましたが、お腹の底から笑うことも多かったでしょう。何のごまかしも不要でした。みんなが思いやる心をもっていたのです。伝道のプログラムは必要ありませんでした。彼らの愛そのものが人を惹きつけました。予算を気にする必要も無く、貧しい人ややもめ、来訪する宣教師を助ける他に、出費は殆どありませんでした。忠実さについて教える必要はありませんでした。忠実でない臆病者は、鎖につながれたり、野獣に襲われたりして自然に除かれてしまったのです。彼らにはお互いがいるだけでした。そして彼らは神によって固く結びついていました。それだけが彼らの財産であり、すべてがその現実に依存していました。

教会は愛ある神の家族に他なりません。オープンチャーチミニストリーの James Rutz によると、教会とは単に家族である、ということで、『神と子供たちが、良い家族がするこ

と、即ち、心と生命を分かち合っているのです。』 このことで特に私にとって意味があるのは、教会は基本的には楽しいところだ、ということです。それは良い家族というものは楽しいからです。(また、これは興味深いことですが、National Church Development research によると、教会成長と笑いには大きな関係があるということです) ですから、もし教会に親密さが無く、楽しくなければ、霊的機能不全に陥っているのです。 Diane Fassel は次のように説明しています。『楽しさが味わわれていないというのは、その組織において何かがうまく機能していない兆候だといえます。組織の免疫力が低下してしまうと、あらゆる種類の病気がはびこります。』 ですからここで私たちは自分たちを吟味した方がよいのではないのでしょうか。愛し合う家族となるための時間が、プログラムや目標、建物、あるいは『良い』教えによって奪われているなら、その時私たちはもはや教会ではない、何か別のものになってしまっているのです。

それではクリスチャンが集まる時にはどんな事が起こるのでしょうか。Rutz は聖書から次のようなリストを作りました、

- > 愛と善行を促すように注意し合おうではありませんか。
- > 互いに罪を告白しなさい。
- > キリストの言葉をあなたがたのうちに豊かに住ませ、互いに教え、互いに戒めなさい
- > 互いの重荷を負い合いなさい
- > 互いに励ましあい、互いの徳を高めなさい。
- > あなた方の間でよく働く者を敬いなさい。
- > 怠けるものを戒め、...臆病なものを励ましなさい。

> 癒されるように互いのために祈りなさい。

> 聖なる口づけをもって互いのあいさつをかわしなさい。

あるいは、『あなたがたが集まる時には、それぞれの人が賛美したり、教えたり、黙示を話したり、異言を話したり、解き明かしたりします。そのことすべてを、徳を高めるためにしなさい。』（1 コリント 14：26）これらの、妥協を許さない教えに従う用意は充分にあるでしょうか。確かにこのようなことは時として起こり得ます。システムの中に出る小さな割れ目に、燃えるような光が扉から差し込み、感情がほとばしりて告白、賛美があり、目が開かれ、喉が涙でつまり、リバイバルの兆しが起こります。その時誰かがパニックに陥って、その小さな割れ目に指を突っ込んでしまわないようにと祈ります。

4年前私は真の交わりを体験しました。それは日本で行なわれたプロミスキーパーズの最初の集会でした。私は、性的衝動(性的面でコントロールを失う状態)について話すことになっていました。セミナーの冒頭で、人々の注意をひく作戦は簡単なものでした。私は何も言わずに漢字二文字だけが書かれた白板を掲げました。『自慰』。言うまでもなく私はすべての男性の注意をしっかりとつかみました。(私がその白板を掲げた瞬間、クリスチャン新聞のリポーターを含む、数台のカメラのシャッターがおりました。そのとき以来、私はその写真がどこに現れるかやっぱり気になります)そして私はその男性たちに、その言葉を今まで教会で聞いたことがあるかと尋ねました。ただの一人も聞いたことはありませんでした。

日本はポルノグラフィーにおいては世界のリーダーと思われるのに、これはおかしなことです。しかもインターネットでポルノには簡単にアクセスすることが出来、クリスチャ

ンを含む男性の多くが毎週何時間もポルノグラフィーを見ているのです。若い男性だけではありません。夫、父親、牧師、そして宣教師たちもです。私は、密かに、また深刻にセックスに耽溺している教職者たちをカウンセリングしてきました。それゆえに家庭も教会も破壊してしまった牧師たちと話をしました。このようなばかげたことのために、妻を捨てた夫を持つ女性たちの嘆きも聞きました。ある、打ちひしがれた教職者が、電車痴漢のゆえに捕まったこと、また、彼の職業を知った時に警官がどんな風にひそひそ笑ったかを話してくれました。

このプロミスキーパーズで話した後、男性たちはペアになって互いのために祈り、自分の人生の中の打ちひしがれたところから正直に分かち合いました。彼らはプライドを捨てて、心から痛みを感じ、互いを必要とする中で、兄弟となりました。そしてそのような砕かれた心によって、一瞬、地獄は押しつぶされました。それまで、私は日本でそのように美しい正直な交わりを見たことはありませんでした。砕かれた心が神聖でした。

「見よ。兄弟たちがひとつになって共に住むことは、なんという幸せ、何という楽しさであろう。それはまたシオンの山々におりるヘルモンの露にも似ている。主がそれにとこしえのいのちの祝福を命じられたからである。(詩篇 133:1,3)

勿論それは私たち皆があこがれるものです。アイデア、トレンド以上のものを語り合い、スポーツ、買い物、天気、趣味、家のこと以外のことを話せる所です。私たちは本当の自分になれる安全な場所を求めています。隠れる必要のない、たとえ私たちがどうであったとしても受け入れてもらえると分かる場所、山のせせらぎのように恵みが流れ溢れ、そのほとりで私たちすべてを生き返らせる場所。そこでは、他の人の告白に息を呑んだりしません。私たちは皆同じであることを知っているからです。私たちは皆貪欲さ、肉欲、プライドと戦いながら、より良いものを切に望み、そして少しずつキリストが私たちの中に

形づくられていきます。ある有名な心理学者が言うように「家族というものは、家族が抱えている秘密以上の健全さは持ち得ない。」のです。

最近、以前は牧師でしたが姦淫を犯した友人が、教会で証しをしました。何千人もの男女の前で、ハリーが不道德な生活をしながら牧会をしていた話をするのを聞いて、私は驚きました。彼はオープンに自分の教会の女性との関係を始め、多くの関係を持っていたことを話しました。そしてついにある日、彼の秘密が暴露されたことを。ハリーが愛人と電話で話している時に、息子がそれを聞き、母親に告げたのでした。言うまでもなく、彼の家族も世界もばらばらになってしまいました。中年になって彼は無一文で親元に引っ越さなければなりませんでしたが。しかし、もし今日ハリーに会ってもきっとそんなことは分からないでしょう。彼は主の喜びを放つ、新しい、また癒された人です。なぜでしょう？それは、彼は両手を広げて受け入れられるところを見つけたからです。彼と同じように戦っているほかの男性たちが彼を受け止めてくれたのです。ゆっくり、少しずつ、彼の人生は元に戻って行きました。今、ハリーは性的衝動のわなにかかっているほかの男性のために働いています。ハリーのような男性たちのゆえに、教会の人々は安全だと感じ、何でも話すことが出来、それでも全く受け入れられるのです。なぜセックスの話ばかりでしょうか？それは性的衝動の根源は私たち皆が持つ基本的欲求、つまり親密さへの渇きなのです。親密さは秘密があっては不可能です。すべての人とすべてのことを分かち合うことはありませんが、同時に私たちは秘密を持つべきではないのです。

どんな家族でも、秘密によってお互いの間に距離が出来てしまいます。秘密は敵の支配を招きます。秘密はプライドと姉妹なのです。そして秘密によって神の家族の中に行き詰まりを生じさせます。私は、他の教職者に会うときに、しばしば私は彼らの働きのこと

はなく、心のことを聞きます。それが一番大切なことだからです。

今私たちが本当の自分になれたら何が起こるか、考えて見てください。リーダーが自らの傷ついたところから、語り、安全な場所を作った時に、癒しが始まるかもしれません。もし私が効果的な人ではなく、正直な人になれたら、... 私たちの声は真実さをもって響きわたり、すべての山々にこだまするでしょう。